



KYOTO OPEN ACCELERATOR 成果発表会を開催
「大手企業×スタートアップ企業」の協業による新規事業が関心集める

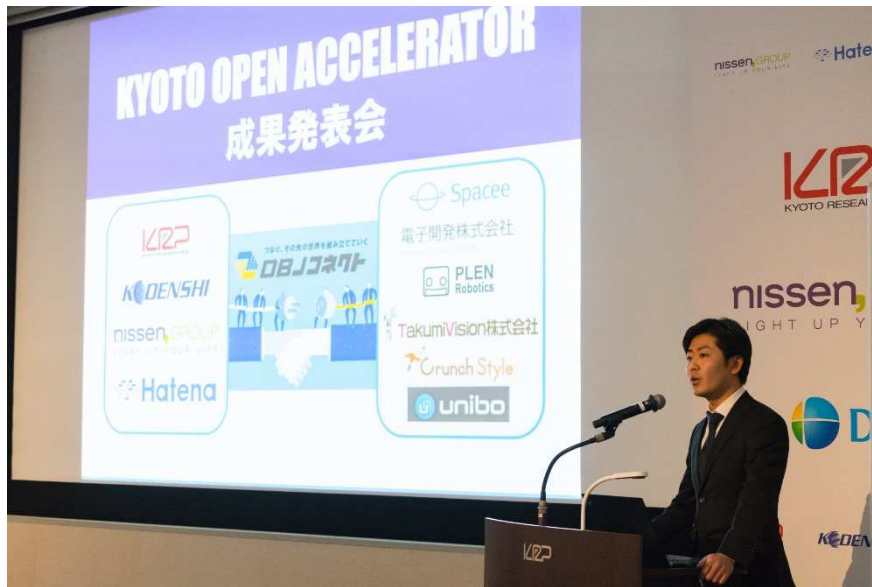
株式会社日本政策投資銀行（代表取締役社長：柳正憲）は、2018年2月16日、京都リサーチパーク（所在地：京都市）で「KYOTO OPEN ACCELERATOR（京都オープンアクセラレーター）」の成果発表会を開催しました。本プログラムに参加した京都に拠点を置く大手企業4社と、大手各社とともに新規事業の創出に取り組むクリエイティブなアイデアや革新的な技術を持つスタートアップ企業が共同で、協業の概要や成果、今後の目標などを発表しました。



「KYOTO OPEN ACCELERATOR」とは、多様な事業領域や顧客基盤、強固なブランドなどの経営資源を有する京都拠点の参加企業 4 社（京都市リサーチパーク株式会社、コーデンシ株式会社、株式会社ニッセン、株式会社はてな）と、斬新なアイデアやノウハウを有する全国のスタートアップ企業とのオープンイノベーションによる新規事業創出を目的とするプログラムです。本プログラムは 2017 年 9 月に、参加企業 4 社の有する経営資源を活用した新規事業案をスタートアップ企業から募ることから始まりました。その後、約 4 カ月間にわたる書類選考、1 次・2 次選考のプロセスを経て、参加企業 4 社とスタートアップ企業 6 社の連携に至りました。



成果発表会で開会のあいさつに登壇した京都府商工労働部ものづくり振興課・池田英孝イノベーション創出担当課長は、「京都の 4 企業と、100 件以上の提案から選抜された 6 社のスタートアップ企業が新しい事業を創出した KYOTO OPEN ACCELERATOR が、今後の京都のものづくり産業を発展させるものと期待しています」と述べ、京都市産業観光局・石田洋也新産業振興室長は「京都市も 20 年前からベンチャー企業を支援する活動をしており、国内外からベンチャー企業を呼び込む取り組みをしています。その中で KYOTO OPEN ACCELERATOR の開催をうれしく思っています」と、本プログラムに対する期待を述べました。



協業の成果発表のトップバッターには、京都リサーチパーク株式会社と、貸し会議室・レンタルスペース予約管理サイト「スペイシー」を運営する株式会社スペイシー（本社：東京都）が登場。ビル内のデッドスペースを活用し、Skype 会議のできる防音室「Work Box(仮)」を、京都リサーチパークを含めた複数社で設置する実証実験を 4 月から予定していることや、ビジネス交流・ビジネスマッチングを活性化するためのアプリの開発を目指していると発表しました。

次に登壇した京都リサーチパーク株式会社と、省エネを実現する電気製品の開発などを手掛ける電子開発株式会社（本社：栃木県）は、電子開発株式会社が製造する特許技術保有の節電製品「スマート・スイッチ」を、京都リサーチパーク地区内に設置する実証実験を今春か

ら開始すると発表。実証実験で節電の効果を検証してブラッシュアップし、新商品や節電ソリューションの展開を目指しています。



コーデンシ株式会社と、サービスロボット「PLEN CUBE（プレんキューブ）」などを開発する PLEN Robotics 株式会社（本社：大阪府）は、コーデンシ株式会社の有するセンサ事業の実績、生産工場・部品調達・販路・営業リソースと、PLEN Robotics 株式会社の有するロボット開発のノウハウを掛け合わせ、防災、金融、アミューズメントなど多方面でスマート社会を実現するサービスを展開し、販路を拡大していく意向を示しました。

同じく、本プログラムでコーデンシ株式会社と、協業企業となった画像処理アルゴリズム開発の Takumi Vision 株式会社（本社：京都府）は、コーデンシ株式会社の有するデジタルサイネージ技術と、Takumi Vision 株式会社の有する手の動きを検知して処理を実行するハンドセンサを組み合わせた「さわらないタッチパネル」の開発や、長期的には新規デバイスの共同開発も視野に入れて動き始めていると発表しました。コーデンシ株式会社と、協業した PLEN Robotics 株式会社、Takumi Vision 株式会社は、2018 年～2019 年中に開催される産業・エレクトロニクス開発関連の展示会で製品を発表し、ニーズを分析・開拓していく計画です。



株式会社ニッセンと、花の定期便サービス「Bloomee LIFE」を展開する株式会社 Crunch Style（本社：東京都）の成果発表では、株式会社ニッセンの顧客に向けて花の定期便サービスを提供する実証実験を 2018 年 3 月から実施すると発表しました。株式会社ニッセンの掲げる理念「いつでも、どこでも、あなたのもとへ“ちょっといいな”をお届けします。」と、「Bloomee LIFE」が提供する価値「手軽に叶う憧れのおしゃれなライフスタイル」が協業することで、「世の中の幅広いユーザーに、いつもお花がある“ちょっと素敵な暮らし”を提供したい」と話しました。



最後に、ソーシャルロボットの開発などを手掛けるスタートアップ企業のユニロボット株式会社（本社：東京都）を協業企業として選んだ株式会社はてなが登壇しました。両社は 2018 年 1 月に、はてなの提供するインターネットサービス「はてなブックマーク」と、ユニロボット株式会社が開発する AI を搭載したパートナーロボット「unibo（ユニボ）」が機能連携したと発表しています。日常生活を支援するパートナーロボットから、テレビやラジオの時事ニュースではなく、「はてなブックマーク」というインターネット上の旬な話題を提供できることに大きな価値があると話しました。



成果発表会では、来場した多くの聴講者が各企業の成果に関心を示し、発表会後の交流会も活発に情報交換が行われました。KYOTO OPEN ACCELERATOR が京都をはじめ、日本の産業発展に寄与していくと

期待しています。

